

大きくなったら何になりたい？

〈愛媛県〉 山里 敬一郎 やまざと けいいちろう
37歳

「大きくなったら何になりたい？」

5歳の娘にそう聞かれた時、私は思わず自分の胸に手が行った。子どもにはそういった質問をよくするけれど、この年齢になって逆に聞かれるとは思いもしなかった。高校生のころ、当時好きだった子が看護学校を目指していた、といった理由からこの道に進んできた私。何度も後悔しながらも、やっぱり辞めずに看護の道を歩き続けていける原動力は果たして何だったのであるのか。

先日、帰省した際に本棚の奥から発掘した小学校の卒業文集には、将来の夢の欄に「通訳者」と、拙い私の字で書かれていた。私ははっとさせられた。

日々の業務の中、自然な形で、毎

日のように医師の説明を患者さんにも分かるように噛み砕き説明したり、逆に患者が言わんとしていることや、方言などを翻訳してその意図をフォローして医師に伝えたりしているのではないか。また、糖尿病教育にチーム医療で携わる中で、多職種間のそれぞれの情報共有を図ったり、退院調整で医療ソーシャルワーカーを通じて他医院や施設とのコンタクトを取ったりと、いわば「医療の通訳者」として、私は働いているのではなからうか!?

思いを他の方に伝える、思いを共有する。そして上手く伝えられたときに達成感の本物の通訳を生業とする方々と相通じるものではないか。子どもものころに描いてい

た理想とは形は違えども、子どもころ憧れていた通訳の仕事で働いている私を、子どもころの自分は、そして娘はどう評価してくれるだろうか。

今私は、糖尿病療養指導士の資格取得に向けて日々勉強、研鑽を重ねている。いわば糖尿病患者と医療スタッフ間の通訳者だ。近いうちに娘に「大きくなっても、今でも通訳者になりたいよ」と、胸を張って答えてみよう。きっと、きよんとした顔をされるとは思っけど。

ちなみに娘の夢は「やさしい看護師さん」とのこと。夫婦で看護師の私たちとしては、苦笑いしつつ、小さな通訳者の成長を温かく見守ってあげたい。